

あなたの猫に快適なシニアライフを送ってもらうために

近年、犬や猫の寿命は、飼い主の方の意識の向上や飼育環境の改善、獣医学の進歩などで以前よりも著しく向上しています。福岡市獣医師会では毎年15歳以上の長寿の犬猫を表彰していますが、その数は年々増加傾向で、今年の表彰は580頭にのびりました。

しかし寿命が長くなるにつれ、加齢から来るいわゆる人と同じような「成人病」の割合も増加してきています。特に犬や猫は平均の寿命がおよそ12から15年で、人に比べて老化の速度が非常に速い動物ですので、気づいたらかなり症状が進んでいた、ということもありえます。

大切な家族の一員であるあなたの猫にできるだけ幸せなシニアライフを送ってもらい長生きしてもらうことは飼主の皆さんの喜びや願いであり、また役目でもあります。毎日気をつけて観察したり体を撫でてあげたりよく触れ合ったりして、早めに老化やそれに伴う病気に気づいて大事に飼ってあげてください。

ここで「シニア」とは何歳ぐらいからを指すのでしょうか？はつきりとした決まりはありませんが、おおよそ6歳から8歳あたりからは「シニア」といって良いと思います。この頃から注意してみると加齢に伴ういろいろな症状が見られるようになってきます。また、これらの症状は加齢にともなって少しずつ進行してきます。年をとることは避けては通れないので、これらの症状を早めに気づいてあげて、あなたの猫にできるだけ長く快適な暮らしが出来るよう、飼主の注意深い観察が必要となってきます。

それでは家庭での観察のポイントについてお話します。

1. 外観の変化

若い時に比べて年をとってくると、必要なカロリーや栄養素が変わってきます。もしあなたの猫が以前に比べて太ってきたなど感じるようなら、一度食べているフードの量や組成を検討する必要があります。肥満は人と同じく色々な病気の原因となります。最近では肥満やシニア用のフードが多数出ているので、詳しくは獣医師にご相談ください。



また逆にすごく痩せてきたと感じるようだと、何らかの病気にかかっている可能性もあります。代表的な病気には糖尿病、腎不全、甲状腺機能亢進症、腫瘍などがあります。また、猫では犬に比べて少ないのですが、体表に腫瘍がで

きることもあります。毎日体を撫でてやったりするときによく触ってあげてください。早期発見できることがあります。

2. 飲水量の変化

猫の一日の飲水量は運動量や季節によって変わりますがおよそ体重1kgあたり40から50ml程度です。つまり3kgの猫では一日120から150ml程度水を飲みます。これが増えてくるようなら病気かもしれません。代表的な病気に糖尿病、初期の腎不全があります。水を飲む量がわからない場合でも、しゅっちゅうトイレに行ったりおしっこが増えているようなら飲水量も増えているかもしれません。早めに気づいてあげましょう。

3. 食欲の変化

ご飯をいっぱい食べているからといって病気でないとは言えません。最近多くなっている甲状腺機能亢進症の場合は食欲が増えて元気いっぱいなのに痩せてくる場合があります。また糖尿病も異常に食欲がある時期があります。また、



だんだん痩せてくる場合は「この子は年だから」と病気を見過ごしている場合もありますので注意が必要です。

年齢を取ってくると口の中や歯が悪くて食べたいけど食べられない、よだれを流すということもよくある症状です。日頃から口の中も見てあげられるようスキンシップを取ってあげてください。

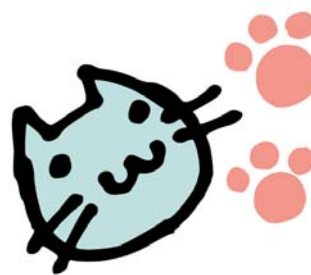
4. 運動の変化

若い時に比べ歩き方がおかしかったり高いところへ上がれなくなった場合は膝や肘、背骨などの関節が障害を受けている可能性があります。運動量が落ちてくる場合は白内障などで視覚が低下していることもあります。また稀ですが心臓が悪くなっている場合もありますので、早期に気づいて病気の進行を遅らせてあげましょう。

5. 行動の変化

だんだん年をとってくると色々な器官が弱ってきて、視覚が衰えたり耳が遠くなったり、嗅覚や筋力も低下してくることでしょう。人と同じく認知症の症状が出てくる猫もいます。例えば同じところをグルグル回ったり、飼主が呼んでもわからなかったり、トイレの場所を間違えるようになったり。老化自体は治療できませんが、症状を和らげたりすることは出来ます。また、これらの症状を老化だと思っても、実際は何らかの病気の場合もありますので、そのようなときは一人で悩まずに獣医師にご相談ください。

これらの変化に気をつけてあげて、年相応にいたわりながらかわいがってあげてください。そしてなにかおかしいと思われたら老化だと決めつけて様子を見るのではなく、なんらかの「成人病」のこともありますので早めにかかりつけの獣医師にご相談ください。また、8歳以上になったら定期的に健康診断を受けられることをお勧めします。病気の早期発見につながりますし、なによりも異常がなければ安心して飼主と一緒に暮らすことができます。



6. 最後に

心配なことや分からないことがあれば、まずかかりつけの獣医師に相談してみましよう。その子に応じた適切なアドバイスがもらえると思います。そのためにもいつでも相談ができるかかりつけの動物病院をぜひつくっておいてください。福岡市獣医師会のホームページ (<http://fukuoka-vs.weblike.jp/>) には会員の動物病院が紹介されていますのでご利用ください。

